

2023 明治安田生命 J3 リーグ 第 21 節 vs. 愛媛 FC

8/5 (土) 18:00 kick off @岐阜メモリアルセンター長良川競技場



2023 J3 順位表 第20節

勝点、得失点差、得点、失点、岐阜戦の戦績 (岐阜から見て)

1	愛媛	39p	+5	29	24	A●
2	富山	36p	+8	33	25	HO
3	鹿児島	34p	+9	30	21	HO
4	沼津	33p	+8	27	19	A△
5	今治	32p	+9	30	21	H△
6	松本	29p	+7	34	27	H△
7	FC大阪	29p	+2	16	14	H●
8	奈良	28p	+9	27	18	A●
9	岐阜	27p	+3	21	18	---
10	鳥取	27p	+1	29	28	AO
11	八戸	27p	+1	22	21	A●
12	岩手	26p	+2	23	21	H△
13	長野	26p	-3	27	30	H△
14	YS横浜	25p	-4	26	30	H● A●
15	宮崎	25p	-6	17	23	A●
16	琉球	24p	-10	22	32	HO
17	讃岐	24p	-13	14	27	AO
18	福島	20p	-10	15	25	AO
19	北九州	16p	-9	18	27	A△
20	相模原	14p	-9	19	28	HO

次回HomeGame

第24節 vs. ガイナーレ鳥取

8/26 (土) 19:00

@岐阜メモリアルセンター長良川競技場

大酒場 ホームラン

名鉄岐阜駅前 (三菱UFJ銀行隣り)
年中無休 午後3時から営業

TEL.058-263-5201

「いらっしゃいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。
休:月曜日

今日もここから
串かつで一杯

煮込み珍道中
串かつ

14:30 ~ 22:00

※売り切れ次第、終了です
火、水、金、土(祝日除く)営業

TEL. 058-252-1580

忠節橋
通り

JR 岐阜駅
北口より
北西方面へ
徒歩約10分

★

ドミー
イン

JR
岐阜駅

today's guest : 愛媛FC

2022 J3 14勝10分10敗 勝ち点52: 7位

直近の対決と結果

2023/04/08

J3 - 6節 @ ニンスタ

愛媛 2-1 岐阜

窪田稜 scored.

ここ3試合の公式戦の結果

FC岐阜		愛媛FC	
2023/07/30	J3 - 20節 @ ニッパツ YS横浜 1-0 岐阜	2023/07/29	J3 - 20節 @ ニンスタ 愛媛 1-1 松本
2023/07/22	J3 - 19節 @ 長良川 岐阜 1-1 長野	2023/07/23	J3 - 19節 @ 白波スタ 鹿児島 1-2 愛媛
2023/07/15	J3 - 18節 @ 長良川 岐阜 2-2 今治	2023/07/15	J3 - 18節 @ プラスタ 八戸 1-2 愛媛

●好調の6月から一転、7月は再び調子を落とし苦しむFC岐阜。7/22 (土) 第19節・ホーム長野戦では、#42 柏木陽介をFWに起用するなどスタメンを変更した岐阜は、序盤からボールを保持するが、なかなかシュートにまで至ることができない。後半になると決定機を生み出すことができるようになるものの、相手の好守備に阻まれて得点は奪えない。ようやく後半37分に相手のミスから#8 窪田稜が先制点を挙げることに成功するが、その後の長野の攻勢に耐えきれずに失点。1-1の結果に終わり、今季前半戦を勝利で締めくくることが出来なかった。そして7/30 (日) 第20節・アウェイYS横浜戦は、今季後半戦の初戦。前半からゴールを狙う両チームだったが、いずれにも得点は生まれず。しかし後半に、岐阜の守備の隙を突いてYS横浜が連続攻撃を仕掛け、混戦で岐阜の守備が崩れたところで先制点を許してしまう。その後、岐阜も同点に追いつくべく攻勢を仕掛けるも、YS横浜の必死の守備に阻まれ、0-1。後半戦の初戦を勝利で飾ることもできず、また、7月を未勝利で終わることとなってしまった。さて、この2試合で勝点を1しか積み上げられなかったFC岐阜。現在の順位は9位と替わらないが、首位・愛媛との勝点差は12、2位・富山との勝点差は9と、さらに差が開いてしまった。そして7月の戦績は、5試合3分2敗・3得点5失点、そのうち無得点が3試合。つまり、それほど守備が崩れている訳ではないが、得点力不足が原因で勝利を掴めていないのが明らかだ。また、ボール支配率は多くの試合で高いものの、“持たされている”状態なのも否定できない。

また、7/21 (金) から8/18 (金) まで、今季の第2ウインドーが設けられている。岐阜に関しては、7/18 (火) に#32 山内彰のJFL・滋賀への育成型期限付き移籍が発表されたが、その他の動きは見られない。クラブの経営安定も重要なため、安直な選手補強は避けなければならないが、チームが良い方向に変わるためには、新しい選手の起用もひとつの要素。この状況を打開するため、上野監督の思い切った采配に期待したいところだ。

さて、リーグ後半戦のホーム初戦、今節の対戦相手は首位・愛媛FCだ。1年でのJ2復帰を目指した昨季は7位に終わった。今季は石丸清隆監督2年目体制でチームの積み上げを重視しつつ、多くの若手選手を獲得して選手層を刷新。開幕戦で敗れてスタートダッシュは果たせなかったものの徐々に順位を上げ、第17節・富山戦で首位の座につき、現在も首位の座を守り続けているチームだ。したがって、現時点のJ3で最も強いチームだと認めなくてはならないが、一方でFC岐阜が上位を目指すためには、愛媛のような強いチームを倒さなくてはならない。自分たちが挑戦者であることを自覚して、90分間最後までひたむきに走り抜き、積極的にゴールを狙い、戦い抜いて勝利を掴み獲って欲しい。

愛媛とのJ2での通算対戦成績は、8勝10分8敗・28得点33失点。J3では1勝1分1敗・5得点3失点。昨季のホーム戦3/19 (土) 第3節は、#3 宇賀神友弥の先制点などにより3-0で快勝したが、今季前半戦のアウェイ戦・4/8 (土) 第6節では、愛媛の#10 松田力に2失点。その後に#8 窪田稜のゴールで1点差に追いついたが、次の1点が遠く1-2で敗戦。今節は、リベンジの意味でも愛媛に勝たなければならない。

愛媛の要注意選手には、まずは先述の#10 松田力を挙げる。現在7ゴールでチーム得点王だが、直近2試合はベンチ外だ。次には、直近5試合で4ゴールの#11 深堀隼平を挙げるべきだろう。2021年にはレンタル移籍で岐阜にも在籍した選手なので、一緒にピッチに立った岐阜の選手も多く、その活躍を許す訳にはいかないだろう。また、#42 柏木陽介や#3 宇賀神友弥とのマッチアップが期待された#3 森脇良太は累積警告で出場停止。今季の愛媛の中盤を支えていた選手の不在が、どのような影響を与えるかにも要注目だ。

東海地方も梅雨が明け、今年も岐阜に猛暑がやってきている。それぞれが自己の体調にも気をつけた上で、90分間最後まで走り続ける岐阜の選手たちを信じて、勝利のため戦い続ける姿を信じて、最後まで背中を後押しする応援を続けよう。今夜こそ、きっと勝利の歓喜を選手たちと分かち合い、そして“HYPER CHANT”が、長良川の夜空に響き渡るはずだ。(ささたく)

投稿募集!! gidaidohri@gmail.com

【第20節】岐阜 1-1 長野

●なんか消化不良というかもったいなかったというか……勝ちきれなかったのが残念。

2トップの一角に柏木陽介が入ったんだけど、しっくりいってなかったような印象。時折ボランチの位置にまで落ちてきて、組み立てをするシーンもあったんで、やはり彼はこっちの方が「らしい」よね。

先制点のシーン、藤岡浩介の積極的なチェイスが長野 GK のミスを生み出し、窪田稜のゴールへと繋がった。半分藤岡のゴールと言ってもいいくらいかな（笑）。でもさすがは三田尚希、一瞬の間を見逃してはくれなかったな。

これで前半戦 19 試合終了して 7 勝 6 敗 6 分、やはり 4 連敗があったりしたのは痛い。けれどもチーム状況はあの頃よりは良くなってきているはず。連敗せずどこまで上に食らいついていけるかが肝。一喜一憂せずじっくり見ていければと。（岐阜の誇り）

●サッカーは 90 分間トータルで勝敗を決するものだ。そして、最初からハイペースで仕掛け続けていたら、大抵のチームは最後にガス欠になり、足が止まる。だからペース配分は重要だと僕も思う。だけど、そうならば、この試合のペース配分はなんだったのだ？と僕は疑問に感じざるを得なかった。まだ蒸し暑い 18 時からキックオフ。ピッチにも熱が籠もっていて、最初からペースを上げると普通以上に体力を消耗するから……という戦略ならば、全員が省エネプレーで行くべきだけど、そうじゃなかった。ゆっくりとボール回しをしたい選手と、最初から先制点を狙っている選手がいるように感じた。だけど、時間がかかっているから相手に既に引かれてブロックを作られてしまう。そして、多少強引でも相手ブロックを突破する手法は、ボール奪取される不安から強行せず、やがてミスからボールを奪われ、守備に戻る。まあ守備バランスを崩したくない気持ちは分かるけれど、得点する絶好のチャンスは、相手の守備が整う前か、ボールを奪うために相手が守備バランスを崩した時じゃないだろうか。そして、両サイドから仕掛ける時も、単騎での攻撃が多くて連動性（運動量？）が不足しているように感じたし、中央突破は……

#42 柏木陽介を F W に起用するのは良いとしても、後ろが不安なのかボールが来ないからか、ボランチの位置まで下がって来てしまし、ボールを受ける選手が……（溜息）。

先制点の直前には、#11 藤岡浩介の惜しいシーン。あれが今季は入らないんだよね……まあ、相手 GK が素晴らしかったと言うしかない。そして待望の先制点は、#11 藤岡と #8 窪田稜が必死にボールを追った成果。相手の隙を見逃さなかった素晴らしいゴールだった。だけど、その後がいけない。気持ちが完全に守りに入ってしまい、しかもチーム全体として体力を消耗し過ぎてしまっていたため、ズルズルと守備ラインを下げてしまう。相手の動きに後手後手に回り、ゴール前でこぼれたボールに反応できず、詰めた相手に思い切りよく足を振り抜かれ、失点。まあ、これも良くあるパターンなんですけどね……（溜息）。ただ、8 試合未勝利・14 位（当時）の長野に追いつかれてしまうというのは、本当にいけない。しかも、ホーム戦でこんな試合をされると「もしかして、『いつでも点は獲れる』って舐めてた選手がいましたか？」って問い詰めたくになります（苦笑）。あるいは、やはり岐阜の猛暑で疲労が蓄積しているのかもしれないとも思う。そうじゃなかったら、風物詩のような夏の失速が説明できないですよ……やっぱり、練習環境も影響してるのかなあ……（溜息）。最後に #27 横山智也選手、J 初出場おめでとう！ユースっ子の活躍は僕らの活力です。今後も期待してます！（ささたく）

●諸事情あって現地観戦が出来ず、「DAZN の見逃し配信だなあ。」と思ってたら、【ぎふチャン】が録画放送を！ありがたいコトです。案外、あっさり情報遮断も出来てたんで、ハラハラドキドキしながらの観戦。【ぎふチャン】で見るのは初めてではないと思うけど、いつ以来だか、前が何の試合だっ

たかは思い出せない。少なくとも、ナンバサダーの解説は初めて。あ、そういや、解説付きの放送も久しぶりだ。4年ぶりか。このカテゴリーにも馴染んできたなあ（苦笑）。

試合の結果には納得。同点にされた場面の守備はもったいなかった。生地クンもプリンスもね。とはいえ、「軽い。」と言えるのはナンバサダーだからこそ、かな？しかし、あの時間帯で三田を入れてくるのは反則だよ、シュタルフくん。それにしても、プリンスの一発がなかなか決まらない。あのヘッドが決まったらなあ……。

でも、運が悪かったワケじゃない。運不運ではない。リョウが決めたのも、プリンスが「こそぞ！」とプレスを掛けたから。狙い通り。追いつかれたのも寄せが甘かったから。終盤だから体力が……ではなく、そこまでにムダ遣いしてしまったから。キツイ言い方だとは思うけど、ペース配分、試合運びもきちんと計算してやらなきゃいけないよね。

結局、今月の長良川は未勝利。下位相手に 3 戦連続ドロー。あー、イマジは違うか。上位だったね。コレが今の実力かな？まあ、毎度失速するこの時期に、負けはアウェイ奈良戦のみ。引き分けとはいえ、勝ち点 3 取れたんならヨシ、としとくか。できたら、月末のアウェイで勝るといいな（願望）。そして、この引き分け 3 つの勝ち点 3 が活きるような気がするんだけど。しかし、次節のアウェイ・横浜戦は 17 時キックオフか。大丈夫かな？みんなが無事でありますように。（ぐん）

●村上春樹『羊をめぐる冒険』の主人公の口癖に「やれやれ」というのがあるのだけど、ここ最近の岐阜がまさにそれ。こういう試合を勝ちきれないから中位のままなんだよね（苦笑）。プロ・サッカーの興行としてみると「これはお客さん減るなあ」って試合だった。少なくとも、増えはしない。「岐阜、よくなってるじゃん！」ってのは目の肥えたあるいは F C 岐阜がないとどうにもならない（笑）ひとの感想で、一般のお客さんからすると「炎天下に結構なカネ払って観に行っ、それで勝つとこ見れない」になる。

長野は直近 3 試合で 10 失点の惨状だから、守備フェーズになるとすぐに 5 バックになって両サイドに蓋をする。そんな中でもリョウ君は仕掛けてたと思う。ボラの北君もこれまで一番よかった。とはいえ、とにかく謎だったのが F W 柏木。さらに、ユーヤがサブにも不在。前節は天皇杯明けだからわかるとしても、今節も不在で柏木が F W ……緊急事態？って。で、柏木 F W が機能してたか？の見解は、ひとによって異なるでしょう。ぼくは N G 側に立ちます。で、北→カズネの交代は残念ながら失敗、逆に長野は交代で入った三田がキツリ決めてドロー。やれやれ……。

H A H H の 4 戦で△●△△。「いやいや、ホームで負けてないっ！」と元気ハツラツになるのなら、昇格なんてきっぱり諦めていいと思う。（吉田铸造）

【第21節】YS 横浜 1-0 岐阜

●前節・長野戦の反省からか、今回もスタメンを変更してきた岐阜。気になるのは前節で負傷交替？した #17 藤谷匠がベンチ外。代わりに故障から復帰した #39 遠藤元一が今季リーグ戦初スタメン（おめでとう！）。そして、これもまた前節の反省からか、攻撃のテンポを上げて序盤から先制点を狙う岐阜の選手たち。積極的にゴールを狙ってシュートを撃つが、残念ながら決定的なシーンはあまり多くない。そして、相変わらずセットプレーは様式美のように相手に弾かれる（苦笑）。ただし、#45 チャーがゴール前どフリーのボールを焦って蹴って相手 GK に捕られたシーンは決定的だった。あれを決めないと……（溜息）。んで、後半 15 分に選手交替があったんだけど……交替する選手が違うことない？あるいは、あの時間帯で交替させる必要があったかしら？と僕は疑問に思ってしまう。少なくともそれまでは、岐阜のペースで試合が進んでいって、攻撃面では積極性も若干見えていたと思うんだけど……っと、これは“たられば”かも（苦笑）。ただ、その

5分後に失点したのは事実。ああいった、多少強引でも連続でシュートを撃っていく、ゴールを狙っていく姿勢はやはり大切だと痛切に感じる。その波状攻撃で岐阜の守備は崩されたのだから。あと、セットプレーをゾーンで守ってるからか、相手が人数を掛けてきたポイントに、あまり岐阜は人数を掛けてないのが問題かもしれないと思った。

失点してから攻勢に出るのはいいけれど、相手の守備に弾かれ続け、やはり先制点を獲れていればと悔やまれる。んで、例の#3宇賀神友弥のシーン。シュートを撃った後、相手のファールをアピールしてるように見えるけど、ここはJ3だということを、残念ながらもまだ理解していないのかなと思う。そして、そんなアピールでベテラン選手がプレーの集中を切らしてピッチに転がり、再びやってきたボールをコントロール出来ないようでは、チーム全体として集中力が不足していると批判されても仕方ないだろう。猛省して欲しい。

かくして、0-1で敗戦。リーグ後半戦の初戦で、いきなりYS横浜に“ダブル”を喰らうという結果。上位から引き離されたことに、チームとして強い危機感を持って欲しいと願う。やはり、夏場は疲労も溜まる（練習の疲労も回復していないのかな？）ことだし、思い切って走り回ることでできる若手選手を、積極的に起用して欲しいと個人的には思う。そして、上野監督にそういう決断をさせるような、若手選手の突き上げにも期待したいです。（ささたく）

●アノ暑さの中で並んで待機して、日除けのない場所で応援してた現地組の皆さん、お疲れ様でした。風もあったみたいだし、岐阜と比べたら、まだマシだったのでは？と思うけど、キツイ試合での奮闘に心から敬意を表します。ダメージが残らぬよう祈っております。

さて、かいつまんで言うと（何回も使ってるけど）『残念』な試合。わざわざ来てくれた悠斗と一緒に喜ぶゴール裏が見たかったね。

前半にも決定機はあった。アレが決まったらな。QBKだったからしかたないのかな？でもさ、ああいうのをキッチリと決めなきゃいけないと思うんだよな。違うかな？>チャーリー。あとは、もっとシュート撃たないと。それもダイレクトで。映像で見てるのと現場では違うことはわかるけど、前が塞がってるとは思っただけだよ。

しかし、やっぱり。なんといってもアレ。確かにGKが見送るしかないシュートが、あの時間帯で決まらなかったのは脱力モノだ。全身全霊を込めた、渾身のシュートだった。それはわかる。そして、ソレが、ハンドで阻まれた上にスルーされた……と見えたんだから気持ちはわからないでもない。でもさ、まだ、インプレーだよ？崩れ落ちたように見えるけど、脚が撃ったの？その後、起き上がって、必死にパスしてたけど、ずっと立ったままだったら、また、シュート撃てたんじゃないかな？いや、うん、ソコまでツッコむのは酷かもね。いくら、「最後まで諦めない。」「共に戦う！」と思っけていても、やっぱり、あるんだよ、気持ちの切れるコトはさ。人間だもの。あとは、ソレを、こういう結果を指揮官がどうフォローするか、本人がどう考えるか。チームとしてどうするのか。ソコが問題。シーズンも折り返しを過ぎたのに得点の形が見えてこないのは、まあ、しかたない。今はいろいろ構築中なんだろう。その分？失点は抑えてる。あとはメンバー構成かなあ？相手もあるけど、天皇杯は見ていて楽しかった。さて、上野さんがどれだけガンコなのかを愉しむとしますか（笑）。（ぐん、）

リーグ戦の折り返しを過ぎて。

●リーグ前半と後半の1試合を終えて7勝6分7敗、得失点差+3。典型的な中位の成績。7月になってからホーム3戦はいずれもドロー、アウェー2戦はいずれも0-1で敗戦。かつて岐阜のゴールを守っていた某選手だったら、また「観客のためいきが選手に伝わっている」と言うのかな（苦笑）。

とはいえ、「毎年恒例の事案に過ぎない」という分析もある。過去7季のFC岐阜の7～8月の戦績は以下の通りだ。
2016年＝0勝4分6敗 勝ち点4 / 10試合 ※J2
2017年＝3勝2分5敗 勝ち点11 / 10試合 ※J2
2018年＝1勝0分8敗 勝ち点3 / 9試合 ※J2
2019年＝3勝2分4敗 勝ち点11 / 9試合 ※J2
2020年＝4勝2分3敗 勝ち点14 / 9試合
2021年＝0勝0分2敗 勝ち点0 / 2試合 ※東京五輪
2022年＝1勝1分5敗 勝ち点4 / 7試合
勝ち越しているのが2020年だけ。しかも、これはコロナ禍でリーグ戦開始が6月下旬、選手の疲労が蓄積する前だったからに過ぎない。要するに、6月までの成績がよかったからちょっと浮わついちゃったけど「結局、夏は全然ダメ」という事案が今季も解決していないということだ。8月には今日の愛媛戦を含めて4試合。さてさて、どれだけ「上積み」出来るでしょうか。

……と書いて、いまのFC岐阜に必要なのは果たして『勝ち点』の上積みなんだろうか？と考えてみるのもアリ。だって、もうないよ？岐阜の今季のJ2昇格は。2位の富山は20試合で勝ち点36。単純にこのペースで勝ち点を積みばシーズン終了時には68.4になる。岐阜は得点を多く挙げて勝つチームじゃないので勝ち点で上回るしかなく、シーズン終了時に勝ち点を69にするには18試合で勝ち点42が要る。1試合あたり2.33だ。3試合で2勝1分0敗、あるいは6試合で5勝0分1敗のペース。どうです、無理ゲーでしょう（苦笑）。イタリア・サッカー的喩えだと「FC岐阜がもし今季でJ2昇格を決めるようなら、ロバの背中に羽根が生えて飛んでいくぜ」って感じだよ。

この『岐大通』には何度か書いているけれど、FC岐阜はプロ・サッカーのクラブ。お客さんに「歓喜に接する舞台を提供する」のが仕事だ。でも、それと「勝ち点3の上積み」はイコールではない。というか、もはやイコールですらない。このリーグ後半戦、4～5月あたりの状況からするとありがたいことに今季のJFL降格の可能性はそれほど高くないので、これからのFC岐阜が目指すのは「勝ち点3の上積み」ではなく「戦力の上積み」であるべきだとぼくは思う。その上積みされた戦力は、来季のFC岐阜で活用されなければならない。自分たちのクラブの収益に、そして顧客満足度に直結するホーム戦では全力で勝ちに行く。ステークホルダーである長良川の観客に『勝利の喜び』をもたらす。そして、アウェー戦では「その試合の勝利」より「来季への投資」を優先する。具体的に言うなら、来季の契約が絶対ではないベテラン選手より若手を優先的に起用することで経験値を上げる。アウェーは負けていいなどとは言わないし、起用する若手にも（当たり前だが）勝利を求めるけれど、ホーム戦よりはクラブの経営資源的な影響は少ないでしょう。

まだ昇格の可能性があるので、「铸造は敗北主義者だ」という見解だってあるでしょう。意見には個人差があるので、尊重しますよ。でも、小松社長だって昨年末に「今年は目の前の試合に一喜一憂しないで」と言ってたじゃないですか（たしか）。ガチのプロ野球ファンの友人が、2020年の途中で下位に低迷するオリックスについて「このままでいい、このままやれば翌年か翌々年にはパ・リーグを獲れる」と断言して、翌年にはリーグを制して翌々年には日本一になった。FC岐阜が目指すのもそういう流れでいいと思う。年俸1,000万円でハーランドやジョータや古橋亨梧を獲れるのであれば、夏の補強もしなくていい。まずは来季への投資。いまのFC岐阜はそういうフェーズにいると思う。（吉田 Casting）